

「仏法をたしなむ」

梅溪 正顕

仏法者、もうされ候う。「わかきとき、仏法はたしなめ」と、候う。「としよれば、^{ぎょうぶ}行歩もかなわず、ねむたくもあるなり。ただ、わかきとき、たしなめ」と、候う。

これは『^{れんにょしょうにんごいちだいききき}蓮如上人御一代記聞書』に出てくる一文であります。年を重ねると身体も^{おとろ}衰えてきますし、集中力も無くなってうたた寝をしてしまう事もあるでしょう。その時になって、「もっと早く聴聞しておけばよかった…」と後悔しても遅いから、わかいうちに仏法をたしなみましよう、と言われるのです。

しかしこれは、年をとったらもうダメですよ、という話とは違います。私たちは普段、仏法にふれる機会があっても、「まだ自分には必要ない。」「他にやりたい事があるのでまた今度。」と後回しにしていらないでしょうか？この「わかきとき、仏法はたしなめ」とは、^{ほうえん}法縁に出^{であ}遇う、その時を^{おろそ}疎かにしないでください、ということなのです。とある塾講師が流行らせた言葉で「今でしょ！」というのがありますが、まさに仏法をたしなむのは「今」なのであります。

さて、このお話をお聴きの方の中には、「私はもう既に聴聞を重ねております。」という方もおられると思います。『蓮如上人御一代記聞書』には、蓮如上人の^{しそく}ご子息である^{じつにょしょうにん}実如上人の教えとしてこう記されてあります。

仏法のこと、わがところにまかせず、たしなめ

私たちは聴聞を重ねていろいろと身についてきますと、そのうち自分の好みが出来てこないでしょうか？好みに合う話は聴き、合わない敬遠する。それは（教え）よりも（私）が優先されているのです。^{へんしょく}偏食は身体によくないと言われますが、仏法も偏食せずたしなみたいものであります。